

秋田県大館市

- ①市内公共施設（子どもの遊び場）へ設置する木育資材等
- ②市内教育機関等を対象としたワークショップ（木製キューブ加工）

【概要・アピールポイント】

- ①市内公共施設（子どもの遊び場）へ設置する木育資材等製作を行い、大会の“レガシー”として市民や施設利用者へ地域材利用のPRを図るとともに、市の木育推進に寄与することを目的としています。
 - ②参加者は、木製キューブを組み合わせて、椅子や小さなテーブル、オブジェ等を制作。キューブを積み上げてものづくりをする過程を通じて、数学や科学、工学、アート等の多分野を横断するSTEAM教育※の実践につなげます。
- ※S：科学、T：技術、E：工学、A：芸術、数学：M

■ 資材提供のきっかけ

大館市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における木材需要を契機とした秋田スギ等の地域材の利用促進・需要拡大を図ることを目的に選手村ビレッジプラザのプロジェクトに参画しました。

■ 提供した木材の概要

- ① スギ集成材
- ② スギ集成材

■ 用途

- ①木育資材等（トンネルの広場、テーブルとベンチの丘、見守りのベンチ、プレイルームなど）
- ②市内教育機関等を対象としたワークショップ（木製キューブ加工）

■ 用途決定までのプロセス

- ①子育て世代より要望を受けていた“屋内の子どもの遊び場”を整備するため、ニプロハチ公ドーム・パークセンター内に「子どもの遊び場」を設置することになり、整備の一環としてビレッジプラザの材料を使用することとなったもの。
- ②地域材利用で連携している「秋田県立比内支援学校」に協力を要請し、ビレッジプラザの解体材の有効活用について検討することとなったため。

■ 完成/使用開始時期

- ① 2022年12月
- ② 2022年12月

■ 製作・使用したものの設置・建設場所や利用者など

【① 木育資材等】

ニプロハチ公ドーム（大館樹海ドーム）パークセンター内

【② ワークショップ】

秋田県立比内支援学校

■ 完成まで・完成後のエピソード

- 完成までに苦労した点
 - ・後利用先の確保
 - ・返却材にボルト等が混入していたことによる加工機械の損傷
- 完成後の利用者の声
 - ・屋内で遊べる施設が完成し、とても喜ばれています

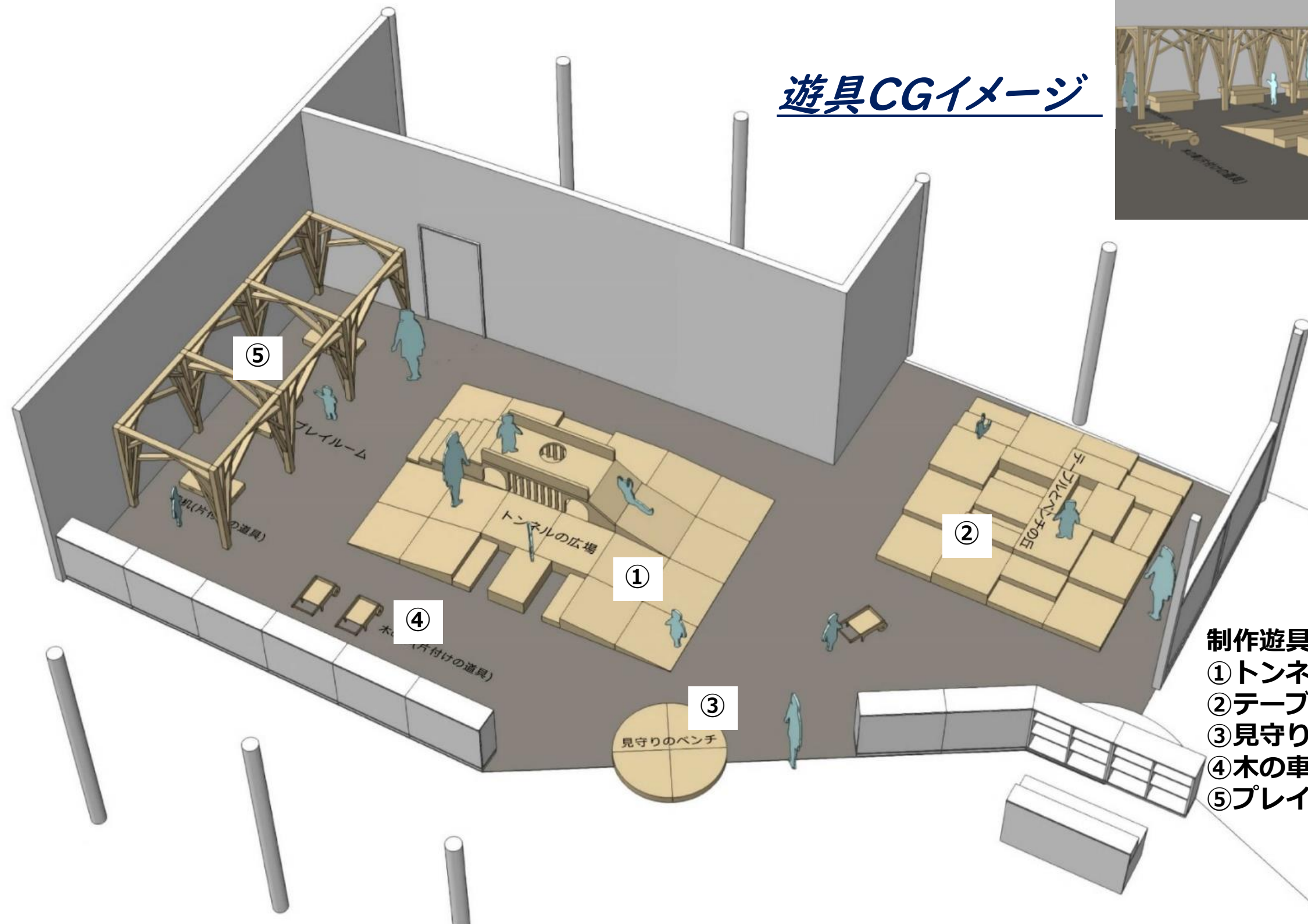
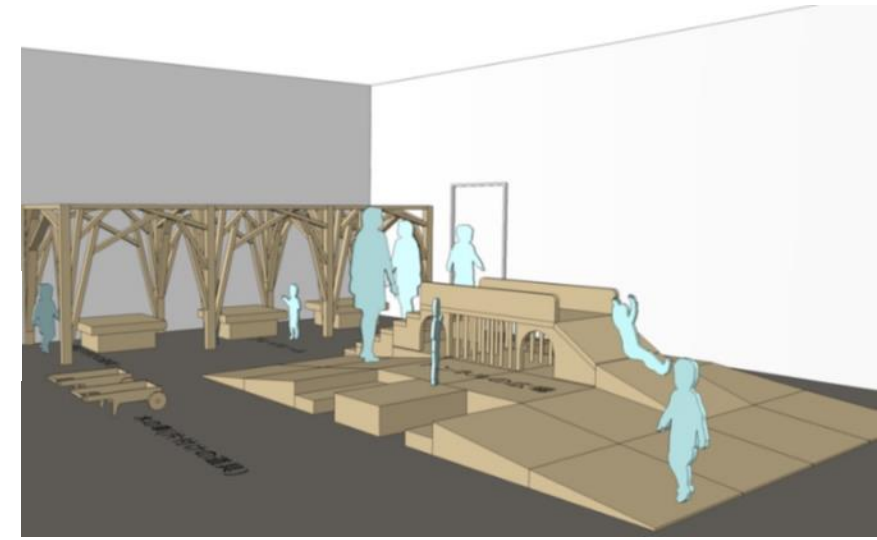
問合せ先

産業部林政課木材産業係

電話：0186-43-7076 メール：mokusai@city.odate.lg.jp

①市内公共施設（子どもの遊び場）へ設置する木育資材等

遊具CGイメージ



制作遊具：

- ① トンネルの広場
- ② テーブルとベンチの丘
- ③ 見守りのベンチ
- ④ 木の車（オリパラ木材未使用）
- ⑤ プレイルーム

①市内公共施設（子どもの遊び場）へ設置する木育資材等



① トンネルの広場



⑤ プレイルーム
※ビレッジプラザの“レシプロカル架構”をイメージ



② テーブルとベンチの丘

④ 木の車



①市内公共施設（子どもの遊び場）へ設置する木育資材等

③見守りのベンチ



1回目（R4.9.26／プロジェクトに関する講座）

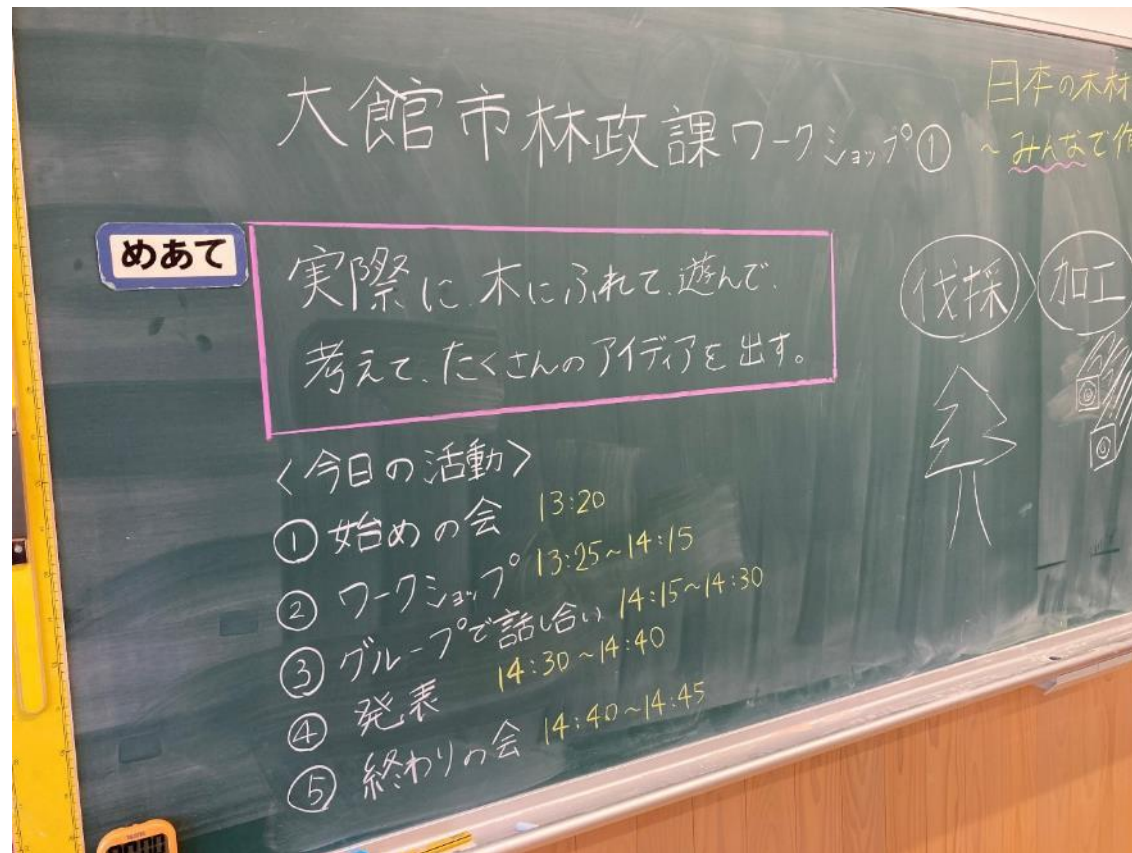


選手村ビレッジプラザ

東京2020組織委員会では、環境に配慮した大会を実現するため、全国各地の国産木材を使用して選手村ビレッジプラザを建築するプロジェクトを立ち上げました。

選手村整備会場
(東京都中央区晴海)

2回目（R4.10.31／後利用アイデア考案）



3回目（R4.12.20／高等部⇒中等部への取組内容・後利用案の説明ほか）

